



**UNITED NATIONS
UNIVERSITY**

2008年6月27日
MR/J26/07

メディア用原稿
非公式記録

国際連合大学 広報部
〒150-8925
東京渋谷区神宮前5-53-70

Tel.: 03-5467-1212
Fax: 03-3499-2828
E-mail: media@unu.edu
Website: <http://www.unu.edu/>

気候変動への革新的な対応を考える国際シンポジウムを国連大学が開催

内容： 国連大学 G8 シンポジウム
テーマ： 気候変動の時代におけるイノベーションと実業化する力
日時： 7月4日（金） 午前9時30分～午後6時30分
場所： 国連大学本部ビル 5階、ウ・タント国際会議場
主催： 国連大学

未来の世代にとっての世界は、気候変動に今世界がどう対応するかにかかっている。実際、未来の世代が存在しえるかどうかは、その対応にかかっていると言っても過言ではない。気候変動は、私たちの生命を維持している自然界と、私たちが慣れ親しんだ生活様式の双方に対して明確かつ目前に迫る脅威をもたらしているが、人類が直面しているこれらの混乱や不確実性の中には、イノベーションや実業化する力、そして投資という点において大きな可能性が存在している。

ジェームズ・E・ハンセン博士が議会証言で気候変動の脅威について世界に警告を与えてから20年。NASA(米航空宇宙局)ゴダード宇宙科学研究所の所長であり、またおそらく世界で最もよく知られた気候科学者であるハンセン博士が今回の国連大学 G8 シンポジウムで基調講演を行う。さらにシンポジウムには、この分野における世界の第一人者や作家らが参加する。北京からは、著名な作家で教育学者であり環境保護論者のビル・マッキベンがビデオで参加。その著書『自然の終焉』(1989年)は、一般の読者向けに気候変動の問題を論じた最初の著作であるといわれている。

ハンセン博士はエネルギー政策が示唆するものについて講演、またマッキベン氏は新しい国際合意の確立について語る予定である。いずれも、本シンポジウムの2日後に開幕する G8 サミットにおいて重要なテーマとなっている。

パネルのテーマと発言者は以下のとおり。

- 『G8の課題：京都から北海道へ』 グウィン・プリンス 大経済政治学院 マッキンダー・センター所長 (英国)
- 『気候の大変動を水素で防御する』 デイビッド・サンボーン・スコット ビクトリア大学 『Smelling Land (陸地の匂い)』の著者。(カナダ)
- 『地球規模での欠乏の問題に向けての国際協定』 アレックス・エバンズ ニューヨーク大学国際協力センター (米国)
- 『数字はなにを語るのか：二酸化炭素放出量削減目標とタイムテーブルのからくり』 テッド・ノードハウス ブレークスルー・インスティテュート (米国)
- 『低炭素の世界：国際的な取り決めへの道』 デイビッド・スティープン リバー・パス・アソシエイツ (英国)
- 『未来の発展に向け、日本で低炭素社会を確立する』 西岡秀三 国立環境研究所、特別客員研究員 (日本)
- 『約束と実行の間で：中国と気候変動論議』 査道炯 北京大学国際関係学院教授 (中国)
- 『自動車産業における CO2 削減活動』 広田寿夫 日産自動車(株)技術企画部エキスパートリーダー (日本)
- 『気候変動に対する中国の観点：何を大切にし、どう行動するか』 ユー・ダウェイ 雑誌『財経』シニアライター (中国)

ポスト石油経済の可能性をさぐる本シンポジウムは、7月4日(金)、東京の国連大学本部で開催されます。皆さまのご参加をお待ちしています。尚、プログラムの詳細と登録については www.unu.edu をご覧ください。

尚、出席できない方のために、本シンポジウムはインターネットのウェブキャスト (<http://c3.unu.edu/unuvideo/?196>)でもライブにて閲覧可能です(後日閲覧も可)。

取材をご希望の方は、下記担当者までご連絡ください。
国連大学広報部、担当：谷野(やの) (TEL:03-5467-1311 e-mail: media@unu.edu)